

雪の結晶デザインの校章 お殿さまからプレゼント

古河市立学校の校章一覧

学校名	古河第1小学校	古河第2小学校	古河第3小学校	古河第4小学校	古河第5小学校	古河第6小学校	古河第7小学校	古河第1中学校	古河第2中学校	古河第3中学校
校章デザイン										
作成期日	昭和29年頃	昭和25年8月	昭和28年12月	昭和33年4月	昭和34年頃	昭和45年9月	昭和50年9月23日	昭和23年3月10日	昭和33年4月1日	昭和59年9月1日
作成者名	不明	田村興造	不明	昭和38年当時の勤務の全職員	不明	篠崎幸平	大槻秀次郎	若色桂輔	福永清	生徒の応募作品を参考に全職員で決定

古河市は茨城県に属していますが、栃木県、埼玉県の県境にあり、地理的には関東地方のほぼ真ん中にある市です。

そんな古河市は、雪とは縁遠いと思われるかもしれませんが、雪は意外と古河市にとって重要なファクターです。

今日は古河市と雪についてご案内いたします。

古河市内には、雪の結晶のかたちをモチーフとする校章を採用している小中学校が存在します。北関東に位置するとはいえ、古河は、降雪がほとんど観察されることがありません。豪雪地域などに設置された学校ならばともかく、古河市の小中学校ではいさかか不思議なことにも思われます。

降雪の少ないこの地の学校校章が、なぜ雪の結晶をかたどっているのでしょうか。

じつは、古河市は、日本における雪氷学（せっぴょうがく）のはじまりに深く関与している、いわば古河は、日本最初の雪の結晶研究に大きな関わりを有するといつて過言ではありません。

ちなみに雪氷学とは、雪と氷を研究する学問のこと。日本の雪氷学は、世界ではじめて人工的に雪を生成させることに成功した中谷宇吉郎（なかやうきちろう）をはじめ、国際的に高い評価を得ているのです。

さて、天保3年（1832）、いまからおよそ190年前のこと。ときの古河藩主、土井利位（としつら）は、20年もの歳月を費やして雪の結晶を観察し、その成果をまとめた『雪華図説』を世に出しました。日本最初の雪の結晶観察図鑑の誕生です。

寒冷化の周期に入っていたとされる19世紀初頭、利位は、こんにちに比べて多くの降雪があった江戸・京都・大坂などの赴任地で、公務の合間に雪の結晶観察・研究に熱中しました。そうして観察した図を、利位は、同僚の諸侯たちに見せている、いかにすれば自身の研究成果を大いにアピールしたということになるのでしょうか。

その結果、利位の観察した雪の結晶図は、またたく間に評判を得ることになります。多くの大名や旗本たちは、雪華図をわれさきにと書写することになりました。こんにちもそうして写された図が多く残されています。

雪華図説は、後に雪氷学の世界、とくに中谷宇吉郎博士によって大絶賛され、数多くのエッセイや論文上で具体的にその秀逸性が検証されるに至りました。

ところで雪華観察のとりこになった利位を突き動かした原動力とは何であったのでしょうか。前例のない自然科学への挑戦は、観察方法や器具にいたるまで、いくたびも試行錯誤をかさね、たびたび困難におちっていたことでしょう。

しかしそうした状況下にあっても、利位は、20年以上にわたり決して観察をあきらめませんでした。それは、利位が美しい雪華という意匠のとりこになったからにほかなりません。雪華図説という日本自然科学史上の功績は、利位の「雪」に対する愛情なくして果たしうるものではありませんでした。このあふれる好奇心に裏付けられた学問への姿勢が、日本の自然科学史上の大きな成果である雪華図説の誕生につながっていることは否めない事実でしょう。

酷寒に耐えながら嬉々（きき）として顕微鏡を覗く土井利位。そうした古河の殿さまが伝える歴史から、古河の小中学校の校章は生まれたものです。いわば利位から古河に学ぶ子どもたちへのプレゼント、雪華をかたどる市内の小中学校校章はそんな利位の情熱をあらわしているのかもしれない。

古河歴史博物館では、企画展「かえってきた堀川國廣」開催前、今月26日まで冬のテーマ展「雪の殿さま土井利位」を開催しています。

また、雪の結晶の雪華図は、当館入口に常設しておりますので、ご来館の際にはぜひ「雪華図」にもご注目ください。



2月10日、当館にも雪が降りました。
雪は美しいだけでなく、恐ろしいものもあります。
皆さま、お身体をご自愛くださいませ。

古河歴史博物館

